

日本語・ハンガリー語辞書作成の現状と課題

若井 誠二・マーテー・ゾルターン
カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学日本文学

キーワード：大辞典 見出語選定 表記項目 付録 編纂の困難点 割付

1. 背景

ハンガリーでは 1920 年代から高等教育機関での日本語講座が始まった。その後、第二次世界大戦末期に日本との国交は断絶状態となり日本語教育も中断されたが、1959 年の国交再開以降日本語教育も再開された。そして 1980 年代後半には日本語講座を置く高等教育機関も増え始め、初等・中等教育機関での日本語教育もスタートした。1989 年の社会体制転換後は首都ブダペスト市に国際交流基金事務所（現ブダペスト日本文化センター）が置かれ、青年海外協力隊が入ったことで日本語教育を行う機関そして学習者数も急増した。この流れを受け 1995 年には日本語が中等教育機関の卒業試験の科目にも加えられた。21 世紀に入りハンガリーの OECD や EU 加盟に伴い青年海外協力隊は撤退したが、日本のサブカルチャー人気もあって、現在でもハンガリーでは日本語教育機関数・学習者数とも緩やかながら増加を続けている（国際交流基金 2013 年のデータによるとハンガリー国内の日本語学習者数は 1554 名となっている。）

一方、日本語・ハンガリー語の辞書は存在はするものの、ハンガリーにおける日本語学習者の助けにはなっていない。日本で出版された本格的な日本語・ハンガリー語の辞書としては、日本におけるハンガリー学の先駆者である今岡十一郎による『ハンガリー語辞典』がある。同辞典は 1973 年に出版され、その後、今岡の長女の尽力により 2001 年に改訂新版も出されている。しかし収録されている語彙は古くハンガリーからの入手も難しい状況にある（amazon.co.jp によると 2014 年末現在、新品で 4 万 2000 円、古書で 2 万円台後半）。この他にも語彙集ではなく「辞典」と名が付けられているものとしては工学博士であった久保義光による『ハンガリー語小事典』（1980 年出版、新装版 1997 年出版）、ハンガリー金融庁調査部副部長であるパップ・イシュトバーンが一橋大学留学時代に発行した『ハンガリー語・日本語 日本語・ハンガリー語経済用語辞典』（2000 年出版）がある。しかしいずれも中身は語彙集レベルのものであり現在は絶版状態となっている。ハンガリーで出版されている日本語・ハンガリー語の辞典としては VARGA István による『日本語ハンガリー語辞典』がある。しかし、同辞典は表記や翻訳に間違いが多い。改定を重ねこれらの問題は修正されつつあるものの、辞書として利用できるレベルにはない。

このような状況の中、ハンガリーでは日本語・ハンガリー語辞典の編纂・出版を望む声が強くなっていった。

2. 日・ハン辞典作成

2. 1 辞典編纂に向けての動き

この流れを受ける形で 1999 年にハンガリーの日本語学・日本語教育学の専門家が中心とな

って日本語・ハンガリー語大辞典（以下「辞典」とする）作成に向けた準備チームが発足した。そして編纂準備（編纂用 PC や英語・ハンガリー語の辞書購入などの初期投資）や編纂に必要な資金（人件費）に関しても糠沢和夫・ハンガリー特命全権大使（当時）、国際交流基金、更にはハンガリー教育省より支援していただくことが決定した。同年 12 月には編纂メンバーを決定し見出し語選定や執筆の方法などについて会議が重ねられた。そして 2000 年 5 月より見出し語の執筆が開始された。なお、編纂メンバーは以下の 10 名で構成された。

表 1：辞典編纂メンバー

<ul style="list-style-type: none">・見出し語執筆者（5名）・日本語の調整+日本語校正（1名）・日本語校正補助（1名）・ハンガリー語校正（2名）・執筆用フォーマット管理者（1名）

見出し語の執筆者は、日本学・日本語学の専門家のうち、過去に語彙集や漢字辞典の編纂に携わった者で構成された。そして、このうちの 1 名が編集長として全体の指揮を執ることとなった。ハンガリー語の校正にはハンガリー語辞典編纂・執筆経験者が入った。

2. 2 辞典の特徴

辞典は日本語学習者のみではなく日本学研究者の使用にも耐えるものが目指された。当時は国立国語研究所等のコーパスもなかったため、見出し語の選定は基本的に既存の和英、国語辞典を参考に行われた。そこにハンガリーの日本学・日本語学習の状況を考慮して語彙を加え、インターネットでの使用状況を確認し最終的な見出し語を決定した。当初は 3 万語の見出し語数を予定していたが、これらの選定手続きの結果、最終的には 4 万 675 語の見出し語数となった。

表 2：見出し語の選定手順

<ol style="list-style-type: none">1. 既存の和英・国語辞典（例えば『例解新国語辞典』第五版など）を参考に選定2. ハンガリーの日本学・日本語教育を考慮した語彙の追加<ul style="list-style-type: none">・『日本語を学ぶ人の辞典』（遠藤織枝編）からの語彙の選定（日本語学習者の視点を取り入れるため）・「政治」「経済」「産業」「文化」「社会」「工業」「自然科学」などの専門用語の追加（ハンガリーと日本の架け橋的人材育成へのサポート）・文学用語、俳句季語の追加（大学院で日本語、日本文化、日本文学を学ぶ人へのサポート）
--

見出し語の配列については、国語辞典に従って 50 音順とした。アルファベット順という案

もあった。しかしハンガリー語表記を利用するのか（例えばヘボン式では「や」は[ya]となるが、ハンガリー語では[ja]となる。）ローマ字表記を利用するのか、ローマ字を使う場合はどのつづり方を採用するのかなど表記の面で問題が多く、更に辞典の対象は日本語初心者ではないだろうとの判断より見送られた。

一方、見出し語の表記については以下の項目を設定した。

表 3：見出し語の表記項目

- | |
|--|
| ①見出し語（仮名） |
| ②見出し語（漢字） |
| ③品詞 |
| ④専門用語 |
| ⑤意味（基本的意味、比喩的意味、特にレアーリアの場合の説明、訳付例文、ことわざ） |
| ⑥漢字熟語、表現、例文 |

このうち③の品詞に関しては編纂開始当時は日本語で品詞を表したが、2009年の編集会議でハンガリー語に変更することとなった。この際ハンガリー語で対応できない品詞名は新たに言葉を作ることとした（例えば連体詞を「főnévmódosító szó（名詞修飾詞）」とするなど）。また、熟語を見出し語として扱わない場合は、熟語に含まれる漢字訓読みの見出し語にその熟語を入れることとした。⑤の「意味の分類」はアラビア数字で行い、基本的に「基本的意味→比喩的意味」「名詞→形容動詞→サ変動詞」などの順番で執筆した。ただし実際の語彙使用状況に合わせてこの順番が変更される場合もあった。例文は既存の辞書その他の文献を参考にハンガリーの日本語学習者・日本学研究者向けに編集長が考え、それを日本語の調整担当者がチェックする形で加えられた。執筆者はこれらの情報を元に執筆用フォーマット管理者によるフォーマットに情報を記入していった。



図 1：執筆用フォーマットに記入された情報（2006年当時）

また辞典には文法規則などの付録もつけられた。

表 4 : 辞典の付録

①文法規則	②標準語と方言
③音便規則	④アクセント
⑤文字	⑥活用
⑦コミュニケーションストラテジー	

3. 出版の遅れ

辞典はプロジェクトスタート当時 2005 年出版を目指していた。しかし 2014 年末の時点でも出版には至っていない。この遅れの原因を挙げると以下の通りとなる。

1) 執筆段階での問題

見出し語選定には専門用語が含まれたが、専門用語のカテゴリー化とカテゴリーごとの見出し語数のバランス調整に手間取った。執筆開始以降も執筆者同士の話し合いが重ねられたが決着がつかず、最終的には日本語調整役がこれを担当することとなった。また例文中に使用される漢字の扱いについては日本語調整役がチェックしたが、量が膨大な上、判断に迷うものもあり相当の時間がかかった。執筆・校正が終わった見出し語は編集長が最終的なチェックを行った。しかしこの作業量も膨大なものであり、編集長がこの作業だけに専念することが難しい状況もあって、これだけで 4 年という時間が必要となった。

2) 執筆後の問題

編集長のチェックが終わり執筆・校正が終了した後も、辞書の割付段階で大きな問題が発生した。辞典出版には編纂メンバーの他に、辞書学の専門家であり、辞書割付の実績があり、そして日本語や日本学に精通している、あるいは日本語や日本学に精通した人物と密な関係が取れる割付専門家が必要であった。編集長が辞書編纂関係者などを通じて探した結果、これに該当する人物が 1 名見つかった。そこで同専門家に割付を任せることとなった。しかし同専門家は本業である科学アカデミーの辞書割付業務（当時）で忙しく辞典用の割付ソフト作成作業が難航した。2012 年の夏、ようやく割付の第一版が完成した。この第一版を編纂メンバーが見直したところ特に構造面で多くの修正が必要であることが明らかになった。このため必要部分を修正し、再度割付を行うことになった。

修正作業は以下の①～④の手順で行われた。

表 5. 修正作業手順

①割付担当者が執筆者用テンプレートを XML に変換しサンプルを PDF 化
②編集長が細かいところまでチェック。
③議論が必要な部分を編纂委員で話し合い修正

④修正案を元に割付

しかし割付には以下のような技術的問題があり、問題解決に多くの時間を要する事態が生じた。

表 6. 割付で発生した技術的な問題点 (例)

辞典では、サ変動詞となりえる見出し語の場合、テンプレートにはそれぞれの意味の説明部分に慣用表現としてサ変動詞の意味と用例を加えた。例えば「運転」には「vezetés」「befektetés」という2つの意味がある。従って、それぞれの意味の説明・用例の後に、サ変動詞の意味と用例を加えた。しかし、割付をすると見出し語の意味・用例と、サ変動詞の意味・用例が独立したものとなってしまった。

うんでん 運転 名 1. vezetés [jáműé], működtetés, üzemeltetés [gépe]; működés, üzemelés 辞っ払い-でつかまった。Elkapták ittas vezetésért; 機械の-を始める elindítja/beindítja a gépet; エレベーターは-休止です。A lift nem üzemel.; ~を代わってやる átvesszi <vkitől> a kormányt - 間隔 járatműködés, járatok követési ideje; - 免許 [監] jogosítvány, vezetői engedély 2. befektetés, megforgatás [pénz] - 資本/-資金 működő tőke → うんよう 2. する 1. vezet [járművel], üzemeltet, működtet [gépet]; üzemel, működik [gép] 機械は調子よく-している。Jól/simán üzemel a gép.; バスは15分間隔で-されている。Negyedóránként járjon a busz. 2. befektet, megforgat [pénzt] 資金をうまく-する。Ügyesen fekteti be a pénzt.

図 2 : 見出し語構造の問題 (サ変動詞が各意味ごとではなく独立項目となっている)

ここに割付担当者の多忙という問題も重なり 2014 年末段階でもこの作業は終了していない。この問題を解決するため編集長を中心に他の割付専門家を再度探す動きも出てきた。しかし辞書学の専門家として辞書編纂に貢献でき、更に日本学・日本語に理解のある他の辞書割付の専門家を見つけることはできなかった。辞典は割付第一版完成に合わせ 1 部印刷され、闘病中である糠沢和夫・元ハンガリー特命全権大使のもとに届けることができた。しかし最終版の印刷・出版に関しては割付専門家の仕事の行方を見守る状態となっている。

<p>あ¹ 【姓】 (összetételi tagként) 1. vmi után következő, második; alárendelt, al-; szub- ~科 (bio/) alcsalád; ~種 (bio/) alfaj; ~熱帯 szubtrópusi övezet 2. agyagos föld, agyagföld 3. (Ázsia rövidítése) 東~ Kelet-Ázsia</p> <p>あ² mas 1. (ああ formában is) (megszólításkor) hé! halló! ~, 富主!が見えるよ Nézd csak, ott a Fudasi! 2. (ああ vagy あっ formában is) (hirtelen meglepődéskor vagy visszaemlékezéskor) aha!, ó!, ja! ~, 財布を持ってこなかった Ó, nem hoztam el a pénztárcáim!</p> <p>ア³ fn 1. (Ázsia rövidítése) 2. (Afrika rövidítése) 南~ Dél-Afrika 3. (a Japán-Alpok rövidítése) 南~連峰(れんぽう) a Japán Déli-Alpok hegylánc</p> <p>ああ⁴ haz (あのように, あんなふうに, あのとおり köznyelvi formája) úgy, amúgy ~まで有名とは知らなかった Nem tudtam, hogy annyira híres; 若い者はとかく~したものとさ Ilyenek a fiatalok; 彼は~するより仕方なかったのだ Nem volt más választása</p> <p>ああ⁵ mas 1. (meglepetés, öröm, sajnálkozás, stílusos hangneme) 2. (köznyelvi) 3. (stílusos)</p>	<p>アーケード fn árkád, oszlopos/boltozatos folyosó, passzázs</p> <p>アース fn (earth) földelés X ~を付ける földel vmit; テレビに~を付ける földel a televíziót ~する földel (vezetéket) ~線 földelt vezeték</p> <p>アーチ fn 1. (bolt)ív, boltíjhajtás, boltozat ~形の boltíves 2. cédrusból/eipruból készült, virággal díszített kapu (sporteseményeken használat) 3. (ap, koll) hazafutás X ~をかける / ~をえがく hazafut</p> <p>アーチェリー fn (nyugati stílusú) íjászat, íjászsport X ~をやる gyakorolja az íjászatot → ようきゆう</p> <p>アーティスト fn művész; előadóművész</p> <p>アーティスト fn ⇨ アーティスト</p> <p>アート fn művészet ~ギャラリー műcsarnok, képtár; ~ディレクター művészeti igazgató; ~紙 illusztrációs/műnyomó papír; モダン modern művészet</p> <p>アメン mas ámen, úgy legyen!</p> <p>アーモンド fn mandula (csonthejas gyümölcs)</p> <p>アール fn ár (területmérték = 100 m²)</p> <p>アール・ド・ヌーヴ fn (19. század) új stílusú művészet stl.</p>
---	--

図 2 : 割付第一版から辞書の形にしたもの

4. 問われる辞典存在の意義

辞典は割付の問題を抱えたままプロジェクト開始より 15 年経っても出版できていない。この 15 年の間に学習者が利用する辞書も紙の辞書から、電子辞典、インターネットの辞書サイトや辞書ソフト、あるいはタブレットやスマートフォンの辞書アプリへと移ってきた。現在オンライン辞書としてハンガリー人が無料で利用できるものには、DictZone、Lingea、Tamino、Glosbe 等がある。このうち語彙数や例文が最も充実しているものは Glosbe であり、見出し語も 2014 年末現在で 4 万 5000 語以上ある。Glosbe で紹介される例文翻訳には誤訳も含まれるが多言語例文集サイト Tatoeba が翻訳したものは正確であり、Glosbe と Tatoeba を組み合わせれば学習者辞書としてはかなり充実したものとして利用が可能となる。Glosbe も Tatoeba も世界中に住むサイト登録者が新たな見出し語や例文を追加・修正し続けている。従って今後、見出し語や例文の数も増え、精度も増し、学習者用辞書としてますます充実したものになると思われる。辞典の見出し語執筆当時も CD 版、オンライン版での出版の話があった。しかし違法コピーを恐れ紙版発行を優先することとなった。Glosbe や Tatoeba の編集方法を見る限り現段階で辞典の CD 版やオンライン版を発行してもオンライン辞書の見出し語・例文編集に利用される可能性は高い。ただ辞典が今後も出版できない状況が続けば、日本学研究者はともかく日本語学習者のニーズからはますます離れたものとなっていってしまう可能性がある。

5. 辞典編纂プロジェクトからの提言

辞典編纂の経験より、今後同様のプロジェクトがスムーズに行われるための提言を 2 点したい。1 点目は、定期的にアップデートされた見出し語及び例文のデータベースと見出し語の選定作業を軽減させるようなシステムを構築することである。見出し語の品詞や見出し語を使った熟語や語彙、例文などが入ったデータベースがあれば、それらを新たに選定したりチェックする必要がなくなる。また、辞書に掲載する見出し語数や網羅する専門分野、使用漢字レベルなどの条件を選択することにより見出し語の枠組みがある程度決められるシステムがあれば目的に合わせた見出し語の選定作業が楽になる。この 2 つをクリアすることで、編纂チームは早い段階から見出し語の翻訳作業に集中できることとなる。2 点目は、打ち込み用テンプレートから辞書割付ができるようなソフトを開発することである。このソフトがあることによって適当な割付専門家がいなくても辞書の出版が可能となろう。

参考文献

佐藤紀子、セーカーチ・アンナ、キシユ・シャーンドルネー (2012) 「日本語教科書『できる 1・2』—その通時的・共時的的位置—」 (<http://www.bgf.hu/kkk/Szervezeti-egysegeink/oktatasiszervezetiesegsegk/NEMZGAZDSZINTTAN/KELETINYTO/keletinyelvekszakszoport/dokumentumok/J-M Együttműködési Forum DEKIRU előadása 2012.pdf>)

資料

今岡十一郎 (1973) 『ハンガリー語辞典』 大学書林
今岡十一郎 (2001) 『ハンガリー語辞典・改訂版』 大学書林
久保義光 (1980) 『ハンガリー語小事典』 泰流社
久保義光 (1997) 『ハンガリー語小事典・新装版』 泰流社

パップ・イシュトヴァーン (2000) 『ハンガリー語・日本語, 日本語・ハンガリー語経済用語辞典』 Szent István Egyetem

Varga László (1999) 『日本語・ハンガリー語辞典』 Gold Bridge Publisher

Varga László (2003) 『日本語・ハンガリー語辞典』 第5版 Gold Bridge Publisher

遠藤織枝 (1995) 『日本語を学ぶ人の辞典—英語・中国語訳つき』 新潮社

林四郎他 (1997) 『例解新国語辞典』 第五版 三省堂

辞書サイト

Glosbe (<https://hu.glosbe.com/ja/hu>)

Tamino (<http://www.japanmagyarszotar.hu/index.php>)

Lingea (<http://szotar.lingea.hu/>)

DictZone (dictzone.com/japan-magyar-szotar/)

多言語例文集サイト

Tatoeba (<http://tatoeba.org/jpn/>)